

5. 5 すむ：アンケート抄—我が家のスピリチュアル・スポット—

Facebook&Twitter (現 X)「とある民俗学講師の補足メモ」

- * 家=家族を襲うさまざまなトラブルの抑止装置
- * スピリチュアルなるものは「境界」に現れる？
- * DKスタイルにおける神棚・仏壇の所在なさ
- * ライフスタイルの多様化と住宅供給のアンバランス

【いろいろ】私の実家（静岡県浜松市）は、1階には祖父母、2階には両親と私、姉が住む2世帯住宅であった。代々農家であったこともあり比較的広い。普段は使わない畳張りの2部屋のうち、1部屋に仏壇や神棚がある。神棚は天照大御神と火之迦具土大御神を祀っている。また、お狐様を祀っている神棚もあり、農家であるためと思われる。その他、掛け軸や家紋のようなものがあり、私の家の歴史が詰まっているようである。

【神棚】我が家は一軒家（富山県魚津市）、大きな畳の部屋が襖で四部屋に区切られ、玄関を入れて左奥の部屋の南南東？に神棚がある。母が言うには、一番太い梁と柱が通っていて、家の中で一番丈夫なところらしい。2024年、能登半島地震の時も、たまたま家族みんなでそこにおいて「柱があるから大丈夫」と言われた覚えがある。私の部屋はその真上にあり、帰省した時は、神棚の上で寝たり足を向けたりする角度にならないように布団を敷いている。

【祭壇】私の家は奈良県天理市にあるアパートの3階です。天理教を信仰しているので、天理教の祭壇があります。本当は和室の床の間に置きたかったのですが、それだと本殿の方向から逆向きになって神様に背を向ける格好になってしまうので、最終的にフローリングの部屋に机を置いて祭壇を置くことになりました。

【仏壇】祖父母宅（大阪府池田市）は二階建ての一軒家で、和室の仏間に仏壇が置かれている。祖母によると宗派は浄土宗で、祖父母は毎日線香をあげて手を合わせている。お盆には果物やお菓子、ご飯などをお供えし、提灯を飾り、お坊さんをお経をあげてもらおう。この仏壇は本来、祖父の兄が継ぐ予定だったのが、家を建てる際に仏間を作らなかったため、祖父の父が怒り、最終的に祖父が受け継ぐことになったそうだ。しかし現在、祖父の娘である母も伯母も仏間のない家に住んでいるため、仏壇仕舞いが検討されている。

【仏堂】私の出身地である台湾の台中市は、街の中心部でも3~4階建ての一軒家が多く見られます。伝統的な一軒家は奥行きが深く、何軒も立ち並んでおり、京都の町家の間取りに似ています。各階には基本的に、手前と奥に2つの部屋があり、そして、ほとんどの家庭では最上階の手前の部屋を仏堂にしています。私の実家も同様に、4階の手前の部屋が仏堂になっていて、幅の広い二段の机（祭壇）が置かれています。上段には仏像や位牌などを、下段には香炉や供え物を置きます。机の中央と左側には、仏壇のようなものがあり、「神龕（しんがん）」と呼ばれるものです。中央の神龕の中には観音菩薩像が祀られ、左側の神龕の中には先祖代々の位牌が納められています。後ろの壁には子授け観音の絵が掛けられています。また、この部屋にはベランダがあり、そこには門神を祀るためのお香を挿す金具が取り付けられています。このように、この仏堂では菩薩、ご先祖様、そして門神（建物の守り神）のすべてが祀られています。

【祭祀屏風】大韓民国の親の実家に祭祀屏風（チェサビョンブン제사병풍）があった。木枠と紙で作った立てる壁のようなもの。普段は倉庫に入っているが、毎年正月、チュソク（韓国のお盆のような期間）などでご先祖様を祀るチェサ（祭祀）を行うとき準備した食べ物の後ろに立てる。書いている内容は主に儒教の文で、孝を強調する内容などが多い。

【ヒヌカン】父方の家（南城市）の風習を引き継いでいる私の実家（沖縄県宜野湾市）では、神棚の代わりにヒヌカンという線香と塩と米、お酒を供えたものを台所に置いてある。旧暦で毎月1日と15日に米と酒を供え直す。長男が独り立ちし新しく家を持つと、実家の線香の灰の一部を持ち帰り新しくヒヌカンを作る。

【かまどの神様】祖母の家（中国浙江省杭州市）は昔ながらの一軒家。台所には昔のかまどがあり、その近くで「灶王爷（かまどの神様）」を祀っていました。香やろうそくを供え、火の安全や家族の平安を祈ります。私にとって、そのかまどは家族の生活と伝統文化を感じる特別な場所です。

【トイレ】私の祖母は高知県幡多郡大月町にある一軒家に住んでいるが、トイレの壁に、我が家の名字が書き込まれた烏枢沙摩明王のお札を貼っている。

【鬼門除け】実家は長野県北安曇郡池田町にある一軒家です。その家の裏の角が切り取られた（凹んだ）ようになっています。北東の角で鬼門封じのためにそうなっているらしいです。

【御札】我が家（兵庫県宝塚市）のスピリチュアル・スポットは玄関にある中山寺のお札である。今年1月、私の大学合格と兄の医師国家試験合格を1週間祈願してもらったらしい。お札の説明書には「毎朝この札に向かって『南無観世音菩薩』と唱えなさい」とある。しかし、実は中山寺は安産祈願で有名で、学問成就是不得意なのか、兄は試験に落ちた。

【鍾馗】我が家はアパート（京都市左京区）で、玄関口の上に瓦でできた鍾馗という人形が厄除けとして置かれている。縦横約10cm、高さ約20cm。鍾馗は中国の伝承が由来であり、京都の屋根の上によく見られ、親しみを込めて鍾馗さんとさん付けで呼ばれる。向かいの家にも鍾馗が設置されていた場合、互いの鍾馗が向かい合わないよう斜めに置かれるが、私の家の正面は小学校であり、鍾馗が置かれていないのもあってか、私の家の鍾馗は真っ直ぐに置かれている。

【屋敷神】福岡県古賀市という田舎にある祖父母の家の話です。台所に火の神の猿田彦大神をまつたお神棚が、中居には、近くにある八幡宮をまつたお神棚があり、また別の部屋には仏壇があります。仏壇のある部屋の壁には亡くなった家族の写真を飾っています。祖父によると年齢順に並べるそうです。朝起きたらまず挨拶をして、花瓶の水を換え、ご飯やお茶をお供えするのが祖父母の家のモーニングルーティーンです。また、庭には家の地神様の「おやしるさま」と、もう新しい場所に移動しましたが「八大龍王様」と「お観音様」をまつた場所、弘法大師の像がありました。お正月にはモロブキ、ユズリハやお餅、ミカンなどをお供えしたりしますが、外に置いているのでカラスによく狙われます。

【墓所】長野県諏訪郡富士見町のある母方の祖母の兄夫婦の家は一軒家で、広い庭があるのですが、門を潜ってすぐ左手にある木がスピリチュアルスポットです。祖母の遺骨が埋まっているからです。埋めた時はまだ芽だったと思います。なぜそのようなことになっているかということ、私の母方はキリスト教（プロテスタント）の家系で、霊園のようなところには埋葬しないからです。母方の祖母の兄が牧師なのと庭が広いことから、そこに埋葬することになったそうです。

【神社】愛知県豊田市の実家は寺院です。浄土真宗大谷派の末寺で、1367年、南北朝時代に始まりました。本尊はお寺の中心となるもので、阿弥陀如来を安置しています。本堂は昭和前期に建て直し、建設に20年間かかりました。

【記念品】父方の祖父母の家（大分県中津市）は一軒家で、リビングの壁には、孫の写真がたくさん貼られている。七五三、入学式など、行事のたびに撮った写真を祖父母が印刷して飾ってくれている。最近では大学入学の写真まで飾られており、久しぶりに訪れると、自分たちが大切に思われていることを感じ、温かい気持ちになる。